
闇に消えた組織

海星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇に消えた組織

【Zコード】

Z5986M

【作者名】

海星

【あらすじ】

組織の秘密を解き明かそうとしている天魔。それは、天魔は組織とすごい関係しているから。そして、天魔のパズルピースを埋めるため。

これは天魔そして仲間達、組織との壮絶な戦いである。

プロローグ　闇に消えた組織（前書き）

初めての推理小説です。駄目駄目だとおもいますが、読んでみてください。

プロローグ 間に消えた組織

「」は未来の日本

今、日本は技術が発展し、日本全体が、大騒ぎだ。

そして俺はごく普通の高校生。黒髪でボサボサヘアーのきれいなルビーのようなきれいな色の瞳をしている。名前は、坂本天魔。だがこれは仮の名前。

俺は記憶喪失だ。ただの記憶喪失ではない。俺はだれかに襲われた。

そこから昔のことの記憶がなくなっている。

でも今は楽しい高校生活ライフを楽しんでいる。

キーンコーンカーンコーン…
チャイムがなるといつせいに周りが騒ぎ出した。

となりのやつは、ゲームをやって遊んでいる。前は、ダチと話している。

俺は、寝ている。

トントン…

後ろを見ると、金髪でピアスをつけて、シャツをだし、腰パンで、さらにジースを飲んでいた、

ダチだった。

『おいおい ナに寝てんだよ!! つまんねえぞ』

『で、何の話だ?』

『噂で聞いたんだけど、『間に消えた組織』って知ってるか?』

『間に消えた組織…』

『噂によると、その組織は、昔は有名な組織だったようだが、突然組織は間に消え

裏組織となつているらしい。その組織関係者はすべて、行方不明。

または死んでいて、

その組織は、数々の事件にかかわっているらしい。』

そんな話聞いたことない話だな。俺は重そうな腰を持ち上げながら、立ち上がり家に帰った。

この時、天魔は何が起こるかもわかつていなかつた。

マリオネットの悲劇——突然の死

そして数日たつたある日の朝。 テレビをつけて、学校の用意をしながら食パンを食べていた。

すると・・・

『…次のニュースです。 昨夜、椿山高校の新田幸太さんが自宅で自殺していたことが分かりました…』

椿山： 新田？

俺は食べかけの食パンを床に落とした。

新田幸太とは、あの金髪のダチのことだ。 俺は頭の中がぐしゃぐしゃになってしまった。

俺は、食パンをくわえて、かばんのチャックも閉めずに家を飛び出した。

学校に着くと、パトカーやマスコミの車でいっぱいだった。俺は小走りで門を抜けると、

マスコミがこちらを向き数十人で俺に向かつて走ってきた。

『新田幸太さんのお友達ですか？ 新田さんはどんな方だったんですか？ ・・・』

カシャ カシャとフラッシュ音が雑音のように耳に入ってくる。すると校長が小走りでこちらに来た。 すると瞬時に反応し、忍者のように全員校長の方へ向かつた。

俺は逃げるように入り、教室に入るとクラスメートのみんながざわざわと騒いでいた。

俺は新田の席を見つめた。 ボーとしていると、担任の澤田真由子、澤りんが入ってきた。

いつもは楽しい感じだが、さすがと悲しい顔をしている。

『はい 静かにして。』

いやな空気になつた。

『みんなも知つてゐると思いますが、昨夜こここのクラスの新田君がお亡くなりになりました。』

すると、またざわざわ騒ぎ出した。俺はまだこの話が信じれなくて、頬をつねつたり、自分ででこピンをしたりした。

『そして最低でも今週中は、マスクコミがひどいので、今週は休みにします。申し訳ないけど、今日はもう帰つてもらひます。あと天魔くんは悪いけど、いつしょに職員室に来てもらひます。』

そして話が終わるとクラスメート全員が騒がしい感じだつた。

俺は澤りんと職員室へ行くと…

『來たな。緊急会議を行う。悪いが天魔くんも一緒に参加してもらひ。』

校長が真剣な顔つきで話していた。

『みんなも知つてゐると思うが、今日、新田幸太くんが自殺された。

そこで天魔くんに聞きたいことがある。』

『…なんでしょうか？』

『新田君は、なにか辛いことや、憎んでこむことなど、なにか言つていなかつたか？』

マコオネットの悲劇——友が残した最後の言葉（前書き）

お願いだから読んでください。

マリオネットの悲劇——友が残した最後の言葉

『いや、なにも聞いていませんけど…』

『そうかい…』

校長は、眉を顰め困ったような顔をした。

『ああ… ありがとう天魔くん。』

そういうと、会議を進めた。

俺は内容も聞かず、ただただボーッとしているだけだった。

まだこのことを信じていない。だが、本当のことは分かっている。

ただ、信じたくないだけだった。

そしていつのまにか、会議をしている先生達は、職員室から姿が見えなくなつた。

『天魔くん…。』

『……』

『天魔くん！』

俺は驚きながら振り向いた。すると俺の担任の澤りんが立つていた。

『先生はみんな帰ったわ。天魔くんもはやく帰りなさいね。今日は本当にありがとうございました。』

『…そんな』

そういうつて澤りんは職員室を出た。

俺は帰ろうとした。でもそのまえに教室へ戻つた。

訳はないが勝手に体が動いていた。

教室に入ると、俺は教室の教卓の前に立つた。

『……なんで死んじゃつたんだよ』

俺は、新田の席の前に立つた。

自然に新田との思い出を思い出した。そして自然と涙が頬をつた。

すると机のなかから、ガムが少しだけ見えていた。

そしてガムを手に持つた。すると床になにかが落ちた音がした。

それはメモ用紙みたいな白い紙切れだった。

それを拾い裏を見ると… 僕は驚きと悲しみで手が震え、紙切れを落としていた。

裏に書かれていた言葉は…

『苦しい』

マコオネットの悲劇——友が残した最後の言葉（後書き）

次回お楽しみに WWW

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5986m/>

闇に消えた組織

2010年10月22日07時12分発行